その他（翻訳と注解）

1923年～1940年にベネディクトとボアズの間で交わされた書簡選集及びボアズの死を悼んでの追悼記事

Correspondence between Ruth Benedict and Franz Boas between 1923 and 1940, and the Obituary for Boas by Ruth Benedict: Translation and Annotation

菊　地　敦　子　　福　井　七　子
Atsuko Kikuchi　　Nanako Fukui

This section of the *Anthropologist at Work* that we are translating includes selected letters exchanged by Ruth Benedict and Franz Boas between 1923 and 1940. Franz Boas died a couple of years later on December 21, 1942. In his letters to Benedict, he mentions the state of his health frequently and we can see in Benedict's writing that she is very concerned for him. What we notice most clearly from their correspondence, however, is how much Boas relied on Benedict to attend to the daily chores of the Anthropology Department at Columbia University.

キーワード
ボアズ、ベネディクト、書簡、コロンビア大学、*Patterns of Culture*（文化の型）、ボアズの死

本稿は文化人類学者マーガレット・ミードが友人であり、師でもあったルース・ベネディクトの死後10年を経た1958年に、ベネディクトが遺した論文、書簡、日記などをミードの視点によって纏め、1959年に出版した*Anthropologist at Work*（Houghton Mifflin Company, Boston）の一部を翻訳したものである。

書簡 Selections from the Correspondence between Ruth Benedict and Franz Boas: 1923–1940、（pp.399–418）「1923年–1940年にフランツ・ボアズとルース・ベネディクトとの間に交わされた書簡選集」はミードも書いているように、「ここに遺された書簡はボアズの手書きの書簡を収めたもので、ベネディクトとボアズの人間関係がどのようなものであった」（*Anthropologist at Work*：1959：399以下*A. W.*とする）のか、またいかにボアズがベネディクトを信頼していたのか感じとれる興味ある書簡集となっている。もうひとつの原稿 Franz Boas: An Obituary

（pp.419-422）「フランツ・ボアズの死を悼む」は雑誌 *The Nation* 156号（1943年1月2日）にボアズの死に対する哀惜を表わしたものである。ミードによればこの記事はボアズの社会的責任感の強さが強調されたものとなっている。（*A. W.* 1959: 419）

書簡選集から伺い知ることができるのは、まずボアズとベネディクトの信頼関係であろう。1920年代後半にはベネディクトはコロンビア大学の人類学部のなかで大きな影響力を持つようになっていた。ボアズは1930年サバティカルをとり、その秋を利用してカナダのブリティッシュ・コロンビアのクワキュートル・インディアンについてのフィールド・ワークを行なっている。留守中、ボアズは学部長宛に、「私の留守中、ルース・F・ベネディクト博士が人類学のあらゆる管理上の仕事一切を引き受ける」許可を願う旨の手紙を書いている。（カフリー：1993：377）殊に1930年以降の手紙からわかるように、ボアズに代わって学部における実際的な仕事や実権をベネディクトに委譲し始めていた。1931年にはベネディクトの努力がようやく報われ、彼女はコロンビア大学文化人類学部の助教授になった。

ボアズはベネディクトに学部の経理的な面、また学生の奨学金など細かな指示をしていた。手紙を通して要求し、詳細にわたる仕事を任すことができるベネディクトは数少ない信頼できる右腕であった。またベネディクトはそうした細々としたボアズの願いに応えていた。

一方、ベネディクトはボアズに主として自分自身の学問的な進捗状況を伝えるとともに、論文や著書を原稿段階で送り、コメントを求めている。この書簡集のなかで最も重要なもののひとつは、1932年8月20日にベネディクトがいつも休暇の時は滞在していた親戚の農場から出した手紙であろう。少し誇らしげにボアズに書いている。「他に何をやっていたとお思いですか。文化統合に関する私の本の原稿を書いていたのです。もう60,000字も書いたんです。……本は100,000字くらいのものにしたいと思っていたのです。……」1934年に出版されたこの本 *Patterns of Culture*『文化の型』こそが彼女の名前を表舞台に登場させ、文化とパーソナリティー研究の書として長く影響を及ぼすことなった。いつもは冷静・沈着なベネディクトが心躍らせている様子がこの手紙から読み取れる。ちなみに『文化の型』（*Patterns of Culture*）は出版以来、時代の流れの折々で第一、そして第二の波となった。1946年には25セントのペーパー・バックの本として出版され、「この国ではじめての真の人類学のベストセラーの一つ」（カフリー；1993：310）となった。

『文化の型』は文化人類学の学問分野に新しい可能性を与えた。それはいうなら予知科学への第一歩となるのではないかという意味である。統合アプローチによって示されるなぜ人々は自らがするように振る舞うのかという根本的な考えに立ち返るなら、様々なことに対してどのプログラムをうけいれるのか、また人としてどのように反応するのかをかなりの確率で予知できるのではないかという意味で、知識人たちに大きな影響力を与える波となったのである。（カフリー：1993：310）そうしたことを考えていると、友人の一人であった龍谷大学教授ポーリン・ケント氏のことが思い出される。彼女はベネディクト研究に邁進していた。そして2008年に

「よみがえるルース・ベネディクト ── 紛争解決・文化・日中関係 ──」と題して国際シンポジウムを開催した。今考えるとケント氏はベネディクトの思想や考え方を真の意味で理解していた数少ない研究者の一人であったに違いないのではないかと思われる。ケント氏はいつも「私はまだベネディクトおばさんの研究をやっているの」と言っていた。志半ばで亡くなった彼女のことが本当に惜しまれる。

サバティカルから戻ったボアズは再び自分の職責を果たすことを予定していたが、1931 年 12 月に心臓を患ったことで、重病となった。結果としてベネディクトが事実上学部運営を継続することとなった。ボアズは 72 歳になっていた。ボアズが正式に大学を退いたのは 1936 年であった。しかし彼は引退後も執筆活動を続けた。1939 年 12 月 20 日の手紙でわかるように、彼の心臓は弱っていた。ボアズはベネディクトにだけは自分の不調の様子は語っている。この書簡集で彼が死について語っている部分は 2 箇所ある。ベネディクトには彼の気弱な部分も見せることができたのではないだろうか。しかし、ボアズは他の人には話さないようにと書いている。ボアズが死亡したのは 1942 年 12 月 21 日であった。ボアズの死後、ベネディクトはそれまでの経緯から考えて、当然コロンビア大学の中心的な立場になるだろうと考えていたであろう。だが大学は、そしてボアズも含めて結婚している女性にそれほど甘くはなかったようである。ボアズ亡き後、ベネディクトは人類学部のチェアを巡って、思いもかけなかった猛烈な大学政治に巻き込まれることになる。

本文の翻訳に際しては、現在差別的だと考えられている語がある。しかし、ここでは本文の通り訳することにしたことをお断りするものである。

References

Benedict, Ruth. “Japanese Befavior Patterns”『日本人の行動パターン』共著　福井七子、ポーリン・ケント、山折哲雄、NHK 出版、1997 年

Caffrey, Margaret. *Ruth Benedict: Stranger in this land,* Texas: University of Texas Press, 1989.

M・カフリー『さまよえる人　ルース・ベネディクト』福井七子訳、関西大学出版部、1993 年

Mead, Margaret. *Anthropologist at Work: Writings of Ruth Benedict,* New York: Houghton Mifflins Company Boston、1959

シンポジウム報告書　よみがえるルース・ベネディクト ── 紛争解決・文化・日中関係 ── 2008 年 12 月 6 日、龍谷大学アフラシア平和開発研究センター、研究シリーズ 6

＊　＊　＊　＊　＊

1923 年～1940 年にボアズとベネディクトとの間に交わされた書簡選集

フランツ・ボアズは不自由さを感じながらも、死ぬまで手紙の口述筆記をしてもらっていた。アメリカ哲学協会（American Philosophical Society）に保管されている書簡は従って面白みに

欠けるものである。しかし、ここに集録されたベネディクトとのやりとりは彼が手書きしたもので、ベネディクトの手紙も同じように手書きであり、そのやりとりは二人の関係の深さと文体をよく示すものである。二人の関係の基本となっていたのは、文化人類学の学問、そして文化人類学の学生のニーズと世界全体に対する思いであった。（訳者注：この部分はマーガレット・ミードによって書かれたものである。）

ニューハンプシャーのウエスト・アルトンにて

1923年9月16日

親愛なるボアズ博士、

帰路の時に蒸気船でお読みになれるよう間に合えばいいと願っていますが、もしかすると遅すぎたかもしれません。夏の間中、神話の仕事に取り掛かっており、先生に質問したり、物語に出てくる偶然性の意味について先生がどう思われるのか伺いたいと思わなかった日は一日たりともありません。かなりの資料を収集したのですが、まだ整理に取り掛かっておりませんし、それをまとめようと試みてもおりません。何かについてこうだと言えるようになる前に、もっと調べなくてはならないことがいつもあるのです。

翻訳されていない物語を読むためにスペイン語を勉強しています。私がスペイン語を勉強しなければならなくなることを先生はご存知だったのでしょうか。私が自分で気付くまで待っておられたのでしょうか。それを思って、思わず微笑んでしまいました。……私を本当に興奮させたのは、実はヨーロッパの物語でした。フィリピンの物語やアメリカの黒人の物語、アフリカの物語を読むまで十分な手掛かりがなかったのです。

ニューヨークには10月1日に戻ります。たぶん先生がちょうど戻られる頃だと思います。この夏は信じられないくらい早く過ぎてしまいました。スタンレーは新しい趣味の写真撮影に、私が民俗学に費やすのと同じくらい時間をかけています。とても結構な趣味です。休みの日は、山を登ったり海までドライブしたり、丘でハイキングをしたりしています。それでも夏の間中、週に5日間くらいは物語に取り掛かっています。そしてコロンビア大学の図書館にいるより、カヌーで仕事をする方がずっと快適です。

ボアズ夫人によろしくお伝え下さい。毎日積み重なるつまらない社交辞令と、ひどくなる痛みでこの夏は大変だったこととお察しします。望みを託せるような何かをお持ち帰りになりましたか。お会いするのを本当に楽しみにしております。

〔ルース・フルトン・ベネディクトからドイツにいるフランツ・ボアズへ〕

1929年6月12日

親愛なるパパ・フランツ

ママ・フランツの妹さんがお亡くなりになったことをお聞きしてから、先生とママ・フラン

ツに思いを馳せていました。家族から離れているところで家族の死の知らせを受けるのはつらいものです。

おかしなことに長いことそうしていなかったのですが、最近、大学で仕事をすることが多くなりました。先生がいらっしゃらないと空虚に感じられます。ルース・ブンツェルはいるのですが、来週メキシコに発つ予定です。来週の末に私はベッドフォード・ヒルズに行き、来月の1日にはニューハンプシャーに行きます。

メルとファン・ハースコヴィッツが先週からここに来ています。2人ともお元気で、当地に赴くのを楽しみにしています。今回ファンは森林地に行くそうです。

一週間ほど前にダグラス・ハーリングがここに来ていました。社会学部に行ったそうですが、社会学部の人たちは、彼が文化人類学部に移籍するのが一般的によいと考えているらしく、この夏移籍の準備を始めるそうです。いつ移れるのかはっきりしていません。

民話の仕事が閉鎖されることにとてもがっかりしています。……

『ジャーナル』[1)]の仕事とフォーク・ロア協会とエスノロジー協会のメンバー・リストや経理の仕事の給料を確保することが益々重要に思えます。ルース・ブンツェルが100ドルで雇える女性を紹介してくれました。年の頃は、中年より少し上で、自分の力が発揮できるようなフルタイムの仕事を求めているそうです。ルースによると、彼女はよく働く人でタイプも上手く、そうした仕事をしてもらうのにうってつけの人のようです。エスノロジカル協会から資金をとってくるように説得する前にネルソンに一度会いに行こうと思います。その女性はもちろん10月1日から働けるかどうか知りたいのでしょうが、それまでに給料のための資金を獲得できるよう努力します。何かいい案はありますか。

哲学科のメキシコでのプロジェクトについてエルシーに知らせなかったのは、私たちの間違いでした。グラディスは彼女にそのことを伝え、エルシーはそれにとても興味を持ち、前に知らされなかったことに気を悪くしていました。このプロジェクトはまだ漠然としたもので、はっきりしたものではない旨を知らせる手紙を彼女に書きました。なぜ最初から彼女に伝えなかったのかわかりません。まだまだ先のことだったし、漠然としており、またエルシーには滅多に会うことはなかったからです。

南西地方全般の民話に登場するTwin Brothersの生命の再生に関して、エーナが論文のアウトラインを送ってきました。とてもよく書けていました。天地創造（Creation story）の物語の改訂モデルとして送ってきたのですが、確かにTwin Brothersは天地創造を予言するものと言えるように思います。エルシーに原稿を回した際に私がエーナに書いたコメントのカーボン・コピーも添えました。でもエルシーから原稿が戻ってきた時には、それに対するコメントが何もつけられていませんでした。気に入ってくれていればいいのですが。

先生とママ・フランツに愛を込めて。

〔フランツ・ボアズからルース・フルトン・ベネディクトへ〕

1929年8月21日、ミッテンウォルドにて

親愛なるルースへ

8月6日付のあなたの手紙はこちらに送られてきました。お便りを頂いてうれしかったです。私たちは1ヶ月近く旅をしています。7月26日にベルリンを発ちました。タウヌスにあるフォン・デン・スタイネン家のお宅で楽しく一週間過ごしました。彼らとは1885年以来の友達であることはご存知だと思います。妻も私もスタイネン家の奥さんに好感を持っています。仕事の話だけでなく、私生活の話もしました。フォン・デン・スタイネン氏はとてもしっかりしていて、お元気なのですが、もう74歳なのです。私より先に亡くなった場合のことを考えて、彼の知識が失われてしまうことがないよう今彼が何をしているのか知っておきたいのです。彼はマーキサス諸島の大変貴重なテキストをもっており、それは音声学的な記述としては十分ではないのですが、古いマオリの資料と同じ位貴重なものです。ポリネシア言語のなかで形式が変わらないというのは驚くべきことです。彼が収集した歌のいくつかはハワイのものとほとんど同じ形式です。

それからボンに行き、私が学生の時メンバーだった「男子学生社交クラブ」8周年記念パーティーに出席しました。50年ぶりに学友に会うのはとてもうれしいことでした。ボンで一緒に勉強した友達が8人以上来ており、そのうちの一人とはとても仲良しでした。私が赤い帽子をかぶり、黒と赤と金のリボンをつけ、同じような格好をした学生や年寄りと通りを歩いている姿が想像できますか。一般的な若者の態度に興味を惹かれました。フランスでもドイツでも同じですが、ほとんどが暴力的な国家主義者か極端な民族主義者です。組織立っていない中間層からはほとんど声が聞こえてきません。悲しいですが理解してあまりあることです。（ドイツ語の直訳過ぎましたね。悲しいかな、そうもありなんというところです。）経済政策、宗教、そして地元の政策によって様々な党が出現しており、過激な思想の党もあります。若者は強い規律をもった党を求めており、その教えにいつでも服従する用意があります。基本的には二つのあい対する考えがあります。一つは社会の整備が必要という考えで、もう一つは統一した国家に対する熱望です。すべての人が政治的事柄に「統一性」を求めますが、自分が考える「統一性」を求めています。……こういったことを考えなければ、楽しく過ごしています。「アータール」への旅行、ライン川下り、そして「ジーベンゲビルゲ」への散歩、そこからシュツットガルトに行き、ママ・フランツの従妹に会い、ミュンヘンに行って文化人類学の実験室を見てきました。そこからリンツに行き、ママ・フランツの別の従姉妹に会い、そしてカリンティアに行って、フォン・ルーシャン夫人と数日過ごしました。彼女は私の姉のヘッドウィッグによく似ています。二人とも夫の思い出に浸って生きており、考えるのはそのことばかりです。何か新しい興味が持てればいいのに！　二人とも子どもがなく、夫に従って夫と共に働いてきたのですが、自立していたわけではありません。そこから一週間、何度かアルプスに旅したのですが、

すっとお天気に恵まれました。そして、ミッテンヴァルトでは6年前にゲートルード[2)]と行った場所を訪問しました。今は天気が悪く何もできませんので、ベルリンに帰ります。途中でいくつか約束があるのですが、26日にはそちらに着くと思います。

ここ数週間もちろん何もしていませんが、気分がよいので、ベルリンに帰ったら時間があるので色々することができます。

昨日、ハーツォグから手紙を受け取りました。彼は歌詞に使うことばの選び方に関する面白い点を見つけたそうです。まだ歌を集め始めてはいないようですが。冬の間も彼を向こうに滞在させてあげられるかどうか心配です。

ニューハンプシャーでご主人と楽しい時間をお過ごしのことと思います。私たちが9月20日セントルイス号でハンブルグから出航することはご存知ですよね。

ママ・フランツがよろしくと言っています。バニーから何か連絡はあったでしょうか。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1930年10月21日　バンクーバー、ブリティッシュ・コロンビアにて

旅の最初の一行程が終わりました。明日の2時に蒸気船に乗り、うまくいけば23日の木曜日の夜、フォート・ルーパートに到着します。何が待っているか楽しみです。ジュリアはいい旅の友で、多くを求めず、自然より政治に興味をもっています。山を横切る素晴らしい旅をし、光がとても美しかったです。8年前にママ・フランツと一緒に立ち寄ったバンフのルイーズ湖の氷河へのすばらしい旅を思い出しました。美しい自然を堪能しました。もうあのようなことは二度と訪れないでしょう。

シカゴから送ったメモをお受け取りになりましたか。そのメモにヤコブズが喜んで来ると言っていることを書きました。東海岸までの長旅を考え、彼のために700ドルとっておく必要があると思います。彼は文化人類学と現代生活の初級コースを担当することになると思います。メモに書いたもうひとつのことは、ハースコヴィッツがすぐに500ドルほしいと言っていることです。1月のできるだけ早い時期に残りのお金が彼に届くように手配してください。エルシーは7日に3,000ドル払い、その後すぐに残金を支払うと言っていました。ハースコヴィッツは1月24日に出発したいとのことです。

私のお金はカナディアン・バンク・オブ・コマースに入金しましたので、その時になれば引き出します。大学の経理部長がこの銀行に500ドルの小切手を送ってくれているといいのですが。送ったかどうか聞いてみてください。

ミス・ディジュールが次の夏までに準備ができているように面倒をみてあげてください。彼女はトンプソン〔リバー〕の資料をすべて読んでおく必要があります。

来週がとても楽しみです。ずいぶん長い間やっていないフィールド・ワークにやっと正面からとりかかれます。他の人がプエブロの民族学的研究をしたので、その研究はこれまでいつも

一面的でした。

色々なことがどうなっているのか、時々手紙で教えてくださるとうれしいです。

皆さんによろしくお伝えください。バニーに手紙を書くように言っておいてください。愚かにも彼女の住所を置いてきてしまったのです。

〔フランツ・ボアズからベネディクトへ〕

1930年11月9日　フォート・ルーパートにて

私たちはここの生活に大分馴染んできました。ジュリアには女友達ができ、バスケットやマットの編み方を習っています。今、彼女は綾取りを教わっています。ここには綾取りの形が何百もあります。また彼女は村のうわさなども仕入れてきます。ここの言葉は彼女にとってかなりむずかしいようです。私はやっとの思いで会話をし、文字に書くと理解できるようになりました。会話は一部しかわかりません。ここの人は早くしゃべりますが、少しずつわかってくるようになりました。今の季節には宴会が頻繁に行なわれます。おととい、地元のインディアンのために宴会を催してあげました。慣習にしたがって、彼らは私にプレゼントをくれたのですが、これによって私は破産してしまいます。というのはプレゼントと同価値に利子をつけたものを返さねばならないからです。あなたに100ドルの小切手を送るようにヘレンに言っておきました。何かあった時のために私たちの19番口座からもう100ドル引き出したいと思います。このお金を持っておいた方がいいと思います。この両方の額を一つの小切手にして、ブリティッシュ・コロンビア、バンクーバーのカナディアン・バンク・オブ・コマースに送っていただけませんか。ひょっとするとそれだけのお金が必要となるかもしれません。

歌と踊りのリズムの問題はそれほど複雑ではありません。手と足はビートに合わせて動くのですが、歌とビートの関係は厄介な問題です。歌の形は少なくとも4つあり、テキストもリズムにも色々なスタイルがあります。さまざまなインフォーマントからテキストを手に入れています。今のところどのテキストも文芸的スタイルは一致しているのですが、ちょっとした違いが見られます。昨日は服喪の祭礼があり、そこで食べ、悲しみの歌を歌い、スピーチや歌で悲しみを払い除けました。ここには一人コモックス・インディアンがいます。あなたかルース・ブライアンに私の研究室に入っていただき、サリシャン言語（訳者注：西海岸北西部の言語系統）の語彙集のファイルの中にコモックス語彙とテキストがあるかどうか探し出していただけないでしょうか。もし見つけることができれば、書留郵便で送ってください。ひょっとすると、その語彙リストを改訂することができるかもしれません。まだわかりませんが。彼らは6人しか残っていないようです。

みんなによろしくお伝えください。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1930 年 11 月 13 日

ブリティッシュ・コロンビア、ビーバー・ハーバー郵便局私書箱

あなたとレッサーからの要望を受けて、一時しのぎとして口座番号 19 から 150 ドル引き出してレッサーに送るように今日電報を送ったところです。それが最もよい対処方法だと思います。というのはその口座には十分なお金が入っているからです。ルーシー・クレーマーのためのお金はサージェント氏からもらうので、そのお金を使うことができます。

ジェイコブズのための 700 ドルを得ることができてよかったです。彼ががんばってくれてこのお金が役に立てばいいのですが。私たちはこちらでうまくやっています。ほとんど毎日宴会があり、歌や踊りが披露されます。昨夜はジュリアが他の人たちと踊り、今夜最初の正式なダンス・レッスンを受けます。文化適応の材料をだいぶ得ることができました。表面上の貧しい漁村の人々の暮らしの深層に村の生活が生き続けているのをみるのは素晴らしいことです。現代の制度への発展に関する興味深いデータも増えつつあります。ほとんどの部族にみられる椅子の並べ方の慣習もまだ 100 年もたっていないと思います。ジュリアは、彼らの現在の経済的な生活の側面に関するデータを少しずつ収集しています。これまでにジュリアは毛布の手仕事を学び、綾取りの形をさらに集めています。綾取りの分布はけっこう面白いです。私は色々なインフォーマントからテキストを集めています。ダンス・スタイルの一部は統一されていますが、人によっては個別の様式をもっています。ダンスの問題はやっかいです。フィルムから研究のための資料が得られるといいのですが[3)]。ここの音楽にはいくつかの特徴的なスタイルがあります。夏の歌、嘆きの歌、愛の歌、冬の歌があります。しかし、これらの歌の問題はここにいる間に解き明かすことはできないでしょう。言語も頭を抱えるような問題があります。いいインフォーマントもいません。というのは、こちらがいうことをすべて許容してしまうのです。たぶんいくつかの方言がひとつに混ざっており、その混ざり方が人によって異なるからだと思います。おそらく文化適応の問題であり、それについて十分な情報が得られることを願っています。ここの天気は雨が降っているか、寒いかのいずれかで、大体雨です。みんなに私からよろしくとお伝えください。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1930 年 11 月 24 日

ビーバー・ハーバー郵便局、ポート・ハーディーにて

エラ・デロリアの 11 月 14 日付けの手紙について、ルース・ブライアンに聞いてください。今、彼女（訳者注：エラ・デロリア）の助けを失うわけにはいきません。大学には 1,000 ドルあり、それは彼女が言語学の仕事をするためのものです。次の 2 ヶ月の間、彼女に 100 ドルプラスして払い、それを使ってダコタ研究に専念するように伝えるのが一番いいと思います。も

しハリーの辞書の仕事がかなり進んでいるなら、彼が作った派生語ではなく語幹のリストをミス・ブライアンにコピーしてもらい、エラ・デロリアに送り、それらの語の最も正確な訳語を書くようにお願いしてください。それが無理なら、もっとテキスト資料を集め、接尾辞の -ka と他の似たような動詞がどのような意味をもつのかを示すリストを私に送るように伝えてください。〜 ka というのはある種の観察やある概念を〜のようなものとして経験するといった意味ではないかと思います。問題は語幹 k が k で終わるのか、k が接尾辞とくっつくのかということです。これを示す例が手元にはないのですが、彼女には私が言っていることが理解できると思います。これについて彼女に以前話したことがあります。遠いところからどうしたらいいのか考えるのは、やりにくいことです。今言ったように他に何もできないのであれば、もっと資料を集めること、特に年老いた人の個人的体験についての資料を集めるように伝えてください。

…昨日はまた宴会でした…乾燥させた鮭と魚油が出ました。その時 12 マイルほど離れた村からボートが来て、ここの部落の人たちみんなを招待したのです。何人かの年老いた女性を残して他の人たちはみんなボートに乗って行きました。いつ帰れるのかわからないので、私は行きませんでした。ここでの仕事のスケジュールが決まっているからです。中断がされることはありません。ダンス・スタイルと動きに関する資料はだいぶ集めましたが、違った人から集めたいです。ジュリアは何人かの女性から人生の話を集めています。特に結婚の話を。綾取りの形を 50 以上集めました。彼女は一緒にいて気持のいい人です。

みなさんによろしくお伝えください。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕
1930 年 11 月 26 日
ビーバー・ハーバー郵便局、ポート・ハーディー、
ブリティッシュ・コロンビアにて

この郵便でコモックス原稿のなかの必要ない部分を送ります。ワグナーの原稿も送ります。ここで目を通すことはできませんので。私が帰るまで放っておくように出発前にオーグスティンに書いたはずです。もしそう伝えていなかったとしたら、このことを彼に伝えるようにルース・ブライアンに言ってください。そして去年の例にならってアメリカ・インディアンの言語の Com-on-Research in Indian Languages の出費報告をルース・ブライアンに作成するように言ってください。私に経理報告を送ってくれるように、もし時間が迫っているようなら事前のレポートとしてリーランドだけに送るように言ってください。... こんなにたくさん頼みごとがあるとは思っていませんでした。ルース（ブライアン）に直接書けばよかったんですが。

こっちはすべてがうまくいっているようです。ジュリアはここの女性に受け入れてもらおうとしています。私はやることが多く、一人ひとり会って話したいのになかなかその機会がありません。でも世間話をしたり、真面目な話をしたりする相手も何人かいます。ジュリアはいく

つかのダンスがずいぶんうまく踊れるようになりました。綾取りに関してはもうプロ並みです。演説のスタイルが少し気になっています。どのように書き記せばいいのかわかりません。ほとんどの演説者はあまりに早くしゃべるので、時折わかる程度です。普通の会話でもやっとなんですから。はっきりと話してくれれば物語の語りなら大分よくわかります。しかし、インディアンの多くはことばの最後を不明確に発音する人が多いです。ささやいたりするので、聞き取りがむずかしくなります。ステハート社がフォーク・ロア・ジャーナルで 1,227 ドル儲けたとグラディスから聞きました。それはいいことです。インデックスがよくできているからでしょう。ジュリアのための論文も手に入れました。ジュリアに言っておいてくれますか。エルシーはどうしていますか。次に手紙を書く時間があれば、彼女にも書きます。ここではけっこう忙しいです。

〔ルース・ベネディクトからフランツ・ボアズへ〕

1931 年 6 月 28 日

ニューメキシコ、アルバカーキーにて

戻ってきました。結局ここに来て、エルパソまで夜行列車に乗って、翌朝そこからバスに乗りメスカレロに行くのが一番いいという結論になりました。

ボアズ先生といっしょに大陸を横断していた時と比べると、この夏の仕事[4]に慣れました。あの頃、私はただ外に出たくない思いでいっぱいでした。でもそれは過ぎた事です。パーティーが楽しみなくらいです。

ミーティングがあった週は天気に恵まれました。月曜日にはとても暑くなり、日に日に暑さが増しています。暑い日は午前中泳ぎ、夕方外で座るのにいいですが、ミーティングに行かねばならない時、暑いのはかないません。ほとんどの日は山に登ったり、ビーチに行ったりしているので、そのようなことに安らぎを覚えます。

親戚の若い人たちと知り合いになれたのはよかったです。みな金髪で背が高く、全員が湧き出るような陽気さを持ち、いっとき、いっときを心底楽しんでいるようでした。こうした人と自分が血縁関係にあることがとても不思議でした ...

このセッションが終わったらすぐにニューヨークに戻るつもりでした。ヨーロッパへの旅行を計画できるようになりましたか。ヨーロッパに行けるといいですね。ボアズ先生が帰宅された時、お子さん全員がお元気でいらっしゃることを祈念しております。先生といっしょに西部に来られたことは、私にとって非常に幸いでした。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1931年8月1日

ハンブルグにて

ヘンリエッタに起きたことでどんなにショックを受けたか、言葉では言い尽くせないほどです[5)]。何が起きたのか想像しようとしているのですが、インディアンが訪問者を殺すという事態が、今日どのようにして引き起こされたのか考えられません。もちろんあなたと、あなたと一緒にいる人たちのことが心配です。あなたが危険な目にあうということではなく、あなたの予定が完全にくるってしまうことを心配しています。詳細は聞いておらず、来週の終わりまで何もわからないと思います。あなたからも何が起きたのかお聞きしたい。あなたと一緒の人たちが大丈夫なのかも知りたいです。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1931年8月14日

ジェナにて

カッシュホフに来てもらって、ホワイト・M・アパッチでの経験について語ってもらいました。彼がアパッチといた時はすべて通常通りだったそうです。その原稿のコピーをファケンタールに送り、あなたにもコピーを送るように言っておきました。この悲劇があなたの仕事を中断させていないことを聞き、ほっとしています。この悲劇は頭から離れません……

あなたが元気で、みんなが情熱を絶やさないことを願っています。時折手紙をください。あなたのことを考えると不安です。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1931年8月27日

ジェナにて

ここに着いてまもない頃、オーガスティンがフォセット・メモワール[6)]の代金3,005.90ルテニア通貨を払ってもらいたがっているという旨をあなたに書きました。こちらの状況では銀行に監査が入るようなことはなく、請求書の支払いをすぐにするのが良いでしょう。何に対しても10%の利息が差し引かれます。私個人の小切手で彼に250ドル渡し、残高を電信するようにホワイトに言っておきました。この状況なので、請求書が合っていることを保証しておきました。この問題を解決するためにできるだけのことをしていただけないでしょうか。

夏はどのようにお過ごしですか。私の返事を受け取ったことと思います。グラディスがシュメーラーの悲劇に関する最初の報告書を送ってきました。本当にひどいです。こうしたことが起きた後に、どのようにして若い女の子を現地に送ることができるでしょう。でも女の子を現地に送ることは、やはり必要で正しいことだとは思いませんか。ローズからとても心優しい手

紙を受け取りました。帰ったら彼に会わねばなりません。

この手紙はニューヨークに送ります。なぜならあなたがまだメスカレートにいる時に届くかどうかわからないからです。

ここはとても静かです。姉妹と姪を伴って来ています。フォン・デン・スタイネンの資料を大分片付けました。彼の未亡人は娘さんと一緒にここに来ており、娘さんはここで医者をしています。

心を込めて

〔ルース・ベネディクトからフランツ・ボアズへ〕

1932 年 8 月 20 日

ニューヨーク、ノーウィッチのシャタック農場にて

…9 月 1 日までここにいます。ルース・ブライアンが私を呼び出さない限り。母もここにおり、とても快適に過ごしています。

来週ルース・ブライアンに例の本の中の自分の章[7]を送りました。ボアズ先生の章はまだ受け取っていないということで、私の章をコピーする時間があるそうです。コピーができ次第先生にお送りします。

他に何をやっていたとお思いですか。文化統合に関する私の本の原稿[8]を 60,000 語も書いたんです。去年の春これを書くと言っていたのを覚えておいででしょう。でも、なかなか書けないのではないかと思い、それに取り掛かっていることをお話するのをためらっておりました。本は 100,000 語くらいのものにしたいと思っていたので、それを考えると今の進捗具合であれば何とかいけそうだと思います。でも最初に考えていたものより少し長くなりそうです。筆が遅くて、1,000 語書くのもとても時間がかかるのです！

そう、一学期に方法論の授業を担当するつもりです。そしてその準備は来月ニューヨークにいる時に取り掛かろうと思っています。ボアズ先生の散歩のお話をお聞きし、うれしく思います。私だったら 2 マイルも歩くことはできないと思います。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1933 年 7 月 13 日

コーンウェル・ブリッジ、コネティカットにて

私のことを思ってくださってありがとう。私があなたや他の人にしたことを、あなたは過大評価していると思います。私は自分の性格や自分の短所を知り尽くしています。特に慎ましいわけでもありません。何か価値あることだと思ったら自分のやり方を通します。“Nur die Lumpen sind bescheiden, Wackre freuen sich der Tat”（謙虚なのはつまらない人間で、勇敢な人は自分の業績を喜ぶ。）そうはいっても常識ある人であれば、自分の限界を自覚すると思います。

私がここに滞在している間にぜひいらっしゃってください。ここでは何もしていません。日向ぼっこをし、眠り、それからうとうとし、そして時には本を読むふりをしています。バニーはどうしていますか。
心を込めて

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕
1934年8月23日
コーンウェル・ブリッジ、コネティカットにて

ズニ神話[9]の前書きを送ってくれてありがとう。

献身的な子どもたちの話やそれと似たような話を、実際の状況やあり得る状況を使った空想の話として説明するのは少し無理があるように思います。この特定のテーマはアメリカではよく見られるもので、同じような形で展開されるので、このナレーションの様式は文化のパターンにかかわらず話に影響を与えたのではないかと思います。たとえばヨーロッパでは悪い継母はよく見られるテーマなのに対し、献身的な子どもたち（ヘンゼルやグレーテルのように）のテーマは比較的まれです。もちろん最後に仲良くなるのはプエブロの典型です。

そちらで楽しい時間を過ごされるように。そして9月にお会いしましょう。原稿をお返しします。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕
1935年8月26日
地方無料料金配達3（Rural Free Delivery 3）
リッジフィールド、コネティカットにて

悪い日にニューヨークに帰ってしまいましたね。先週の終わりはごった返していました。

あの忌々しい本[10]をこつこつ続けています。ネルソンが書いた章[11]はよいのですが、考古学史の部分が長く、考古学的とは言い難い民族学的なデータも混ぜているので、彼の章を読んだあと、我慢できずにローウィーの章を読み始めました。ローウィーが“Economic life”「生活の経済的な側面」をどう扱ったか忘れていました。この章の原稿を受け取った時、もう少し他のことも入れるように言ったのを覚えているのですが、読んでみると全部が、あるいはほとんどが植物栽培、歴史、動物を飼いならす歴史で、経済についてはほとんど書かれていないことがわかりました。資産などについての言及はほとんどなく、お金や貿易に関して省略した議論が書かれているのみです。そしてバニー！彼女の章もイラストも受け取っていません。何と忌々しいこと。狩りと食物採集に関する部分を除いたローウィーが書いたほとんどの部分を発明のところに入れ、「食物の栽培と動物の家畜化」という特別な章にしようと思います。──もちろん今はクワキュートルの仕事はしていません。

カーシュホフに50ドル送らなければならなかったことを話しましたか。雨が降ったため、置き去りになってしまったようです。

学生のためのロックフェラー基金に関する報告書をデイに送っておきました。満足してもらえるといいのですが。──でも将来に何が起きるのかわからないものです。

私の一番上の姉が亡くなったことをすでにお知らせしたと思います。姉はひどく苦しみました。胃がんだったので仕方がありません。もうすぐ81歳だったのですが、人生で与えられた些細なことでも楽しむすばらしい力をもった人でした。元気な時には音楽と歴史が好きでした。姉が亡くなる2週間前まで、妹のヘッドウィッグが毎日姉にアメリカの歴史を読んであげていました。姉は生きていたかったと思います。ママ・フランツと同じように人生を愛し、楽しんでいました。私は自分の終わりを望みはしませんが、人生が終わっても悔いはありません。

クローバーの論文[12]は、『アンソロポロジスト』の10月号に掲載されます。スパイア（レスリー・スパイア）が教えてくれていれば、同じ号ですぐに答えを書くことができたのに、何てことだ。

今度の月曜日にコーンウオール・ブリッジに戻り、9月にはニューヨークに帰れると思います。あなたに会って色々聞かせてもらうのを楽しみにしています。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕
1938年8月29日
コーンウオール・ブリッジ、コネチカットにて

牧場で静かで快適な時をお過ごしのことと思います。7月10日からこちらに来ており、1日の木曜日には町の方に戻るつもりです。この夏は私にとってあまりよくありませんでした。ここのところ6週間ほど、あまり調子がよくありません。今は気分がよくなっているのですが、すぐに疲れてしまうのであまり仕事ができません。急に年をとった感じです。ヘレン（訳者注：ボアズの長女）と彼女の家族は11日に帰りますが、息子たちが家で待っているわけではありません。独立して暮らしており、それは彼らにとっていいことだと思います。でも若者たちを誘惑する様々なことに巻き込まれないといいのですが。──グラディスの手紙によると、彼女はアリゾナのグレナダに行くそうです。もう到着しているかもしれません。彼女のコー・ダリーン（訳者注：アイダホ州のネイティブ・アメリカンのコー・ダリーン族）の文法[13]の最後の校正をもうすぐ読み終えます。──そのころまでには*General Anthropology*[14]の本は仕上がっているはずです。7月10日以前にインデックスを読み終えました。──私たちの南アメリカの仲間から何の連絡もありません。彼らから何か聞いていますか。11月までにはブリティッシュ・コロンビアからアメリカ・インディアンが一人が到着する予定です。あなたには彼らに関して何通かの手紙を書いてもらいました。うまくいくよう願っています。マックがアルバニーで公務員の職に就き、9月1日に出発するのを知っていますか。そしてポーラは12月に出るつもりのようです。彼ら

にとって喜ばしいことです。コロンビア大学では将来性がなかったからです。あとは何があるでしょう。マイケルソンの急死についてはすでに聞いていると思います。ブルースも亡くなりました。私たちのために彼が書いていた原稿を何とかしなければなりません。もっと明るいニュースが伝えられればいいのですが、そういうニュースはありません。ぜひまた手紙をください。

〔フランツ・ボアズからサバティカルでカリフォルニアにいる
ルース・ベネディクトへ〕
1939 年 10 月 24 日
グラントウッド、ニュージャージーにて

9 月 26 日付けのあなたからのお手紙を受け取りとてもうれしかったです。もっと前に返事を書くべきでしたが、最近は筆不精になっています。世界情勢について私がどう思っているのかお知りになりたいのですね。世界情勢についてあれこれ考えるのは止めにしました。ヒットラーはスターリンの駒になってしまっていることは明らかです。そしてスターリンは西ヨーロッパとドイツが大量出血で死ぬことを望んでいます。ただわからないことは、スターリンがそれを自分の権力を増すためにしているのか、共産主義のためにしているのかという点です。私たちに関して言えば、私たちは偽った旗を掲げて航海しなければなりません。完全に関わりたくないのならば、すべての軍事物資の貿易を禁じなければなりません。それがどんなに無知に見えたとしても。しかしそれができるでしょうか。そんなことをしたらこの国の農民や商人は大騒ぎをして、瞬く間に私たちは戦争に巻き込まれてしまいます。国全体に課せられた負担をきちんと分担することは誰もしません。話しても仕方ありません。本当は火中に飛び込んで行きたい気持なのですが。軍事物資の取り引きの制限は全くの感情論から成り立っています。軍事物資の取り引きは将来のためにとって置いた方がいいと思います。アメリカの爆弾や銃弾が「ウイルソンの平和への願い」と呼ばれていたことを忘れることはできません。イギリスやフランスの民主主義をもっと信用できていたらいいのですが。彼らは理想のために戦っているのではなく、権力を維持するために戦っています。今の状況では軍事物資の取り引き制限はそれほど騒ぐには値しません。重要なのは “cash and carry”、厳格なる「現金店頭売り」です。私が少し心配しているのは、西部戦線で何も起こっていないという苦情です。もちろん彼らは攻撃があればその代償は高く、無意味であるということは知っているはずです。すべてを使い尽くす戦争になってしまいます。私はわれわれの市民権にもっと興味を持っており、あなたもご存知のようにその戦いに身を投じています。今もニューヨーク州の商工会議所を攻撃しているところです。彼らは無償の高校を閉鎖し、宗教を導入したりすることを望んでいるのです。もっと力があればいいのですが、体力を要する仕事は引き受けられません。私の心臓はそれに耐えることができないのです。

文化人類学？ ── あなたが指摘なさっている手紙を見ますと、自殺だったことがはっきりしま

す。ここにいる学生の何人かは、理由もなく彼[15]は殺された……そうですよね？学部の人たちにとってこの夏は本当にひどいものでした。私の論文選集「人種・言語・文化」[16]の校正ももうすぐ読み終わります。今読み返してみると、マクミランが出版しようと決断したのが不思議に思えます。大衆受けするには専門的過ぎます。これまでいつも一般的な論文が先にきて、その後に専門的なことがくるようにしていました。それによって私の仕事の方法を見せたかったのです。──そういえばペーター・シュミッツの英語のバージョン、“The Culture Historical Method of Ethnology”[17]彼は知識人ですね。──そして鼻につく自信家です。クワキュートルの研究は遅々として進みません。ヘレンはもうずっと先に進んでいて、特に言語の部分もほとんど一人で終わらせ、私が民族学に集中できるようにしてくれてます。コチティ・テキストをすることになっていたグラディスのフィンランドの学生はここにいませんが、来学期に帰ってきます。オーグスティンはグルックシュタットで進めている本のシリーズを終わらせられるようです。クワキュートルの巻と言語学のジャーナルを終わらせないと怒られてしまいます。

バニーが学部の出来事を公平にみることができるかどうか疑問です。もちろん彼女にも言いたいことがたくさんあるでしょう。レントンとストロングが学部に関して色々意見があり過ぎることは確かです。問題に対処するときにどうしたらいいかを学ばずに、ハーバードのやり方を踏襲することにならないように願っています。もっと積極的な知識が必要ですが、学部の根本的な精神が変わってしまうのは残念です。もちろん私には何もできません。私は居させてもらっているだけなので。

今度の月曜日に学生に招待され、話をします。彼らに科学的方法について話そうと思っています。──今誰かに会うのはとても困難なことです。定期的に月曜日と木曜日は大学に行きます。研究室でバニーと昼食をとり、時にはハーゾクとも昼食をとります。私に会いたい人の列が絶えずあり、夜死んだように疲れます。人に会うため町に行くことはできません。私に会いたい人はここに来なければなりません。もっと多くの人に夜に会いたいのですが、誰にとっても家まで来てもらうのはとても遠いです。ママ・フランツが生きていたら、もっと多くの人を夕食に招くのですが、今の状態でしたら、ヘレンやセシールに負担をかけてしまいます。──妻の一番上の姉が2週間ほど前に他界しました。妻の家族のなかで私と同世代の人は、私だけになってしまいました。

妹がやっと私と一緒に住む必要性を受け入れました。一階の階段の横の小さな部屋を彼女のためにきれいにしました。きっと心地よく感じてくれると思います。──あなたのところの難民はどうしていますか。

まあおしゃべりはこのくらいでいいでしょう。また手紙をください。あまり間を空けないで……

〔追伸〕11月の終わりまでにアミリア・サスマンをツムシアン族のところに送り込みます。

フランツ・ボアズ

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1939年11月17日

グラントウッド、ニュージャージーにて

あなたが病気だと聞いてびっくりしました。この手紙が着くころには回復されているといいのですが。お知らせください。アミリアは昨日博士課程の口頭試問に合格しました。来週ブリティッシュ・コロンビアに行きます。あなたからいいニュースが届くことを願っています。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1939年12月20日

グラントウッド、ニュージャージーにて

戦争に関するあなたの論文を非常に興味深く拝見しました[18)]。ひとつだけ9頁に書かれたことに疑問を感じます。「国際結婚」は通常、破滅的な社会状況をもたらさないようです。外婚制ではない社会においても、息子が父親を敵に回すような血みどろのあだ討ちをするのと同じではないかと思います。平和な関係に収まることが多いので、そういった話は聞きませんが。しかし、このことはあまり重要ではありません。あなたがお書きになった主要な二つのポイントはとてもいいと思います。お元気でお過ごしください。ご家族と幸せな時が過ごせますように。

私に関してはあまりいい報告はできません。急に年老いたように思います。1938年の夏からそうです。不整脈で心拍数が高く、体が弱っています。ちょっとした距離でも歩くと息が切れます。特に体を動かさなくても息が切れることがあります。そして理由もなく何もしていなくても疲れることがあります。自分が持っている資料を、それが使える人に手渡したいのですが、どうすればいいのかわかりません。みんなそれぞれ自分のことで忙しいです。このことは誰にも言わないでください。私が病気だと誰かから聞いたのだとしたら、それは少し違います。少しの間疲れていて弱気になっていたのです。私の論文集は[19)]1月に出版されるということです。ダコタ文法は政府の印刷局に留め置かれています。

……色々なことがスムーズにいかないのは残念です。とはいっても、バニーが時々少し興奮して報告してくるようなこと以外は何も聞いていません[20)]。リチャードソンの口座をジュールズに移すのは、Fr── 基金がまだ宙に浮いている間はせずにおきます。まあ、私のことは気にしないでください。今日私の世界が終わったとしても、私は満足すべきです。

メリー・クリスマス、そしてよいお年を。

〔ルース・ベネディクトからフランツ・ボアズへ〕

1939年12月26日

カリフォルニア、パサディナにて

戦争の記事を読んでくださった上、すぐにお手紙を書いてくださりありがとうございます。

先生の意見を取り入れて義兄弟間の戦いに関する論点の説得性が少し高められたと思います。ケインガング族（the Kaingang）について……はお気づきでしょう。そしてこのようなことは平和をもたらす慣習がないところでしか起きないことを強調しました。書き直した論文を同封します。

ルース・ブライアンは今私の Modern Age Book[21]の人種に関する部分を半分と Racism に関する最初の章をタイプしてくれています。私の字は読みにくく間違いが多いので、彼女がタイプし終わってすぐに先生にお読みいただくことをお願いするのは恐縮です。でも、2 月 1 日に出版するには原稿ができていなければならず、書き直しをする時間的余裕がほとんどないのです。今もし読んでいただけるとしたら、時間を節約するために先生の方からルースに原稿を頼んでいただけないでしょうか。本の残りの部分は私がここでタイプし、今週中に先生のところにお送りします。この残りの部分には、誰が「優越なのか」という章が含まれています。これは人種の章の最初の部分で、人種差別のセクションの前にきます。人種の混交と異種族の混交についての章はまだ書いていないことにお気づきになると思います。まだ書いていない部分についてあれこれ説明し、先生を煩わせたくなかったのですが、締め切りに間に合うかどうか心配になってきていました。

各章の後ろにはできる限り集めた引用があり、それらは人種について、そして人種差別の悪について私が論じた点が非常に多くの賛同を得ていることを示しています。

先生のお体の調子があまりよくないということを毎日心配しています。先生はこれまでのご自分の人生に大いに満足され、またご自分のお仕事にも十分に満足されていることは疑うべくもありません。先生はお考え以上に偉大なのです。私たちから見れば、先生が毎年掲げる新しい目標は、一生かけて達成するようなものであり、先生がこれまでと同じように、力強くお仕事をされるのを何より望んでいます。先生とお知り合いになって以来、先生がいらっしゃること、そして先生とお会いできたことを神様に感謝しない時はありません。私の人生のなかで先生の存在がいかに大きなものであるか、言葉では表わせないくらいです。先生のご多幸を祈念するのもおかしいかもしれませんが、それでもそれを願っています。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕

1940 年 7 月 19 日

コネティカット、コーンウォール・ブリッジにて

昨日オプラーから手紙をもらい、ゴールデンワイザーが亡くなったことを知りました。詳しいことは書いていません。才能あふれる人の人生が自己破滅によって無駄になってしまったと考えると悲しいですね。彼は人生の現実、あるいは科学の事実が自分の精神的心地よさからはずれると、決して受け入れることができませんでした。──どうしていますか。私は日々の様々な出来事にすっかり浸り切っています。フランスの移民、そして母国の状況です。自分が楽観

主義なのか楽観過ぎるのかわかりません。ルーズベルトのような人が1932年[22]から全く変わってしまうなんて考えられません。彼は政治家で好意的ではない議会と大変な戦いをしています。その原動力となっているのは何でしょうか。得られるものは手に入れ、自分が認めないものに反対することによってすべてを失わないようにすることでしょうか。わかりません。でも一度信じてみたいと思います。

〔フランツ・ボアズからルース・ベネディクトへ〕
1940年8月30日
コネティカット、コーンウォール・ブリッジにて

しばらくお手紙を受け取っていません。エラのチェック・ブックを受け取ったかどうか知りたいです。エラはチェック・ブックをあなたに返したと言ってきました。それとゴールデンワイザーのための文章を書いてくれませんか。

先日あなたの本[23]が届きました。本の効果があるといいですね。もう一度読み返すと、論点とは違ったことが強調されている箇所があると思います。最後の章はとても効果的だと思います。

いつニューヨークにお帰りになる予定ですか。私はおそらく14日頃に帰ると思います。

＊　＊　＊　＊　＊

フランツ・ボアズの死を悼む*

フランツ・ボアズは偉大な学者だった。56年間アメリカに住んでいたが、彼をアメリカの偉大な科学者としてのみ評価する人はいない。彼はドイツでユダヤ人の両親のもとに生まれ、ドイツで教育を受けた。成人してからアメリカで暮らし、文化人類学者として彼は世界全域を自分の研究領域とした。アメリカとドイツ両国に対して情熱的な愛国心をもっており、各国の最良の状態は、他のすべての国が良い状態にあるときにのみ達成できると信じていた。彼は膨大な知識をもっていた科学者で、民族の違いを誰よりもよく理解していた。違いがあっても、はっきりと目を見開き、知的な理解さえあれば、世界が協力して公平な取引をすることが可能だと確信していた。

問題を科学的にとらえ、調査によってその答えを得るという方法は、ボアズが若い時に物理や数学の勉強を通して身につけたもので、彼はそれを社会科学の分野に取り入れた。また既存の知識を駆使するだけではほとんどの問題の答えは得られず、現地に赴いて新しいデータを得る必要があるという確信もこの分野にもたらした。社会科学の分野でこの二つの考えを掲げて突き進むことによって、彼は近代文化人類学の基礎を築き、近代文化人類学の偉大な業績を積み上げた。科学者として彼は根気よく研究し、彼の学問に対する真摯な態度は決して揺るぐこ

とはなかった。

そして彼は科学者として、また教室以外の場面で重要な責任ある仕事をした。世界情勢に対する自己の態度や行動が自分の科学的知識に影響されないはずがないと考えていた。自我を介入させることなく辛抱強く行なった研究から学んだことは、日常の問題を解決するのに役に立った。研究成果を社会に応用することは、研究の詳細を出版するのと同じ位重要な科学の責任だと彼は考えていた。彼は未開と都会の子どもの形質人類学に関する膨大なデータを集めて分析した。しかしその業績によって、ナチスのアーリア族に関する「北欧のばかげた理論」やアメリカの人種差別を公に非難する免罪とはならなかった。クワキュートル族の考えや行動に関する惜しみない研究とその記録を通して、彼は様々な形態の生活がそこで育つ人々の深い忠誠心や喜びを引き出すことができることを学んだ。他の文化に関する彼の研究も彼の考えを補強するものとなり、彼は文化の相違は不可欠なもので、価値あるものであることを確信した。そして文化の違いを受け入れることができるような世界でなければならないと信じていた。

そのため彼は世界の仲裁人になろうとしているアメリカ人に対して異論を唱えた。1916年に戦争に対する気運が高まっている頃、「アメリカの政治制度が一番で、それはアメリカだけでなく、全人類にとっても一番よいもので、またアメリカ人の倫理観、宗教観そして生活基準もすばらしい」といったアメリカ人の考え方を非難した。そのようなアメリカ人は、「人類に幸福をもたらす役割を果たそうとし」、「自分たちが崇拝するものを他の人種は嫌悪する」ということを見逃してしまう。「ドイツ人、オーストリア人、ロシア人、その他どの国の人も自分たちの問題は自分たちで解決すればいいと思うし、私たちの制度の利点を彼らが受け入れなければならない」理由は全くないと思うと彼は言っていた。

彼はひとつだけ条件をつけた。「その国が他の国の独立性を尊重しさえすれば」というのが条件だった。そういったことができない人、つまり相手を借金のカタに奴隷にしたりするなど、人間を見下すようなこと、あるいはある国の人たちに対する侮辱、人種差別のような傲慢さをボアズは、じわじわと社会全体をダメにするような傷口だと考え、それを直さなければ政治体制全体を破壊することになると考えていた。彼の診断によると、今日の社会の病はまさにそれだと思っていた。彼が攻撃するのはその点であり、国家主義や軍国主義や資本主義ではなかった。人間の尊厳、あるいは集団の先天的な気高さを彼は信じており、侮辱されたり、人に支配されたりしては、その尊厳が実現されないと考えていた。「狭い考えを持った無礼な白人といるより自分と同じ興味や理想をもった共感できる中国人、マレー人、黒人といる方が安らぐ」と彼は言っていた。

文化人類学者として彼は他者に対する敬意の基本的姿勢は、個人の理想にとどまるだけでは十分ではないことを知っていた。社会の秩序の変動によって、他者に対する敬意は一般的なものではあり得なくなる。そのため彼は、「人類の他のグループを犠牲にして、ひとつの国の国民に利益をもたらすようなすべての法律」に対して戦った。しかし彼が言うように「各国の独立

性に対して敬意を示すということは、人々の移住によって、自国の独立性が脅かされた場合、自国の独立性を維持する権利があるということ」である。市民権を奪うあらゆるものに対して彼は反対した。学校で知的自由を制限するような状況すべてに抗議した。40年前から彼はアメリカと極東との文化理解、そしてアメリカとラテン・アメリカとの文化理解のために働いていた。近代の様々な発明や近代商業により、ますます世界は小さくなってきている。そしてそのため幾つかの国々は他の国をますます脅かすようになってきている。そういった国々の人々は、他の国の生活様式を知らないために、それらの国に対して無関心になったり、冷淡になったりすると彼は考えていた。

1902年に彼は極東の文化を研究するための教育機関を設立する計画をたてた。そこではアジア系の人々の研究をするだけではなく、アジア系の人々に関する情報発信を考えていた。当時彼が言っていたのは、「極東における私たちの未来をあきらかにするには、まず私たちが持っているもので、極東の人が価値を見出しているものは何か、そして彼らが達成したもののうちで何が私たちに価値あるものであるかを知らねばならない」。この教育機関の設立を達成するにあたってボアズは、ジェイコブ・H・シフとクレーランス・H・マッケイを含む人たちを集めた。一人の文化人類学者故バートホールド・ローファーは何年間か中国に送られた。しかしアメリカはフランツ・ボアズが望むような教育機関を維持できるような状態にはまだ至ってはいなかった。残念ながらこの教育機関のための資金は出資されなかった。

1908年にボアズはインターナショナル・スクール・オブ・メキシコというアメリカ全土の文化協力と研究を行なうセンターを設立しようとした。彼は個人でそのための資金集めをし、そこで一年間研究をし、教鞭をとった。しかしまたしても、このような総合的な分野を扱うセンターを支持してくれるような社会はまだ実現されていなかった。亡くなる一週間前にボアズは国際文化理解を促進する試みのこれらの失敗について語っている。「ある程度のことはなされたが、遅きに失したため、私たちはハンディを負うことになった。」

開戦直前になっても彼は抵抗することをあきらめなかった。ここ数年間、ボアズは自分の手紙や記事がドイツの地下組織に使われていたのを誇りに思い、彼らを助けるため時間や労力を惜しまなかった。ドイツにいる40歳以上の世代の人たちのなかには、民主主義をまだ支持している人たちがたくさんいることを彼は信じており、戦争が終われば連合国はこういった人たちと協力できると考えていた。そしてこの人たちと絶えず連絡を取り合うことにより、ナチス・ドイツの国外に力強い同士がいることを彼らに知らせねばならないと思っていた。

長い人生を通してフランツ・ボアズは自分の理想を信じ続けた。科学の長老という肩書きに彼ほどふさわしい人物はいなかった。にもかかわらず、自分の年齢に近い人よりむしろ若い世代の人たちの情熱に火をつけることができた。84歳になってもボアズは妥協することなく、老いたる様子を微塵も見せず、自分を独善的な檻に閉じ込めることもなかった。彼は文化人類学のすべての分野において科学的研究の基準を設けた。それは誰も真似ができないことだった。

1936 年にコロンビア大学の文化人類学科の学科長を辞してから、ボアズは自分の理想を追求する時間ができたと感じていた。そして私たちは今日もその理想のために戦い続けている。彼は偉大な人で、我々は、まさに今この時に彼のような人を必要としているのである。

注

＊ *The Nation 156* 号、1 月 2 日（1943 年）15 ～ 16 ページ。ここに書かれたフランツ・ボアズに対する敬意は、彼がもっていた社会的責任感を強調しているが、1931 年に出版された *Scientific Monthly 32* 号（1931 年）278 ～ 280 ページに記載された American Association for the Advancement of Science の会長としてのフランツ・ボアズ教授を讃えた記事と比較することができる。後者では科学者としてのフランツ・ボアズに重点が置かれたものになっている。ボアズの貢献に対する評価の違いは、これら二つの記事が現れるまでの 12 年の間に、ベネディクトがボアズの貢献をどのように見ていたのかという変遷の過程を表わしている。

1）*Journal of American Fork-Lore*、ベネディクトは 1925 年から 1939 年まで編集者であった。

2）1925 年 10 月に脊髄性小児麻痺で亡くなったボアズの娘

3）このフィルムは喪失してしまった。1932 年 2 月 20 日付の手紙でベネディクトはそのフィルムが無くなってしまった状況を次のように説明している。アーヴィング・ラーナーがプロジェクターを借りてバニー（訳者注：ルース・ブンツェル）のガテマラのフィルムをパパ・フランツに見せるためグランドウッドに持って行きました。その時、間違えてパパ・フランツのクワキュートルのフィルムを持って行ってしまいました。月曜日にグラディスが車でプロジェクターとバニーのフィルムとパパ・フランツのフィルムを持って帰りました。一人でオフィスまで運びたくなかったので、月曜日と火曜日、車に置きっぱなしにしたのですが、火曜日の夜、車に置いてあったものが車ごとすべて無くなってしまったのです。すでに一週間経ちましたが、何の手がかりもありません。パパ・フランツは自分のフィルムがなくなったことにひどく落胆しています。リズムを研究するのに、それを頼りにしていたからです。「去年の冬のフィールド・ワークはすべて無に帰した」とまで言っています。

4）メスカレロ・アパッチ保護地区で行われた民族学的フィールド・ワークのトレーニング・ディレクターとしての役割。このトレーニングはニューメキシコのサンタフェにある文化人類学研究所の主催で行われた。

5）ヘンリエッタ・シュメーラーはフィールド・ワーカーでアパッチの保護地区で殺された。

6）Arthur H. フォーセットの著書 *Folklore from Nova Scotia, Memoirs of the American Folklore Society, 24,* ニューヨーク、1931 年

7）ボアズ編集による *General Anthropology* の ‘Religion’ の章。ボストン及びニューヨーク、ヒース出版、1938 年、627 ～ 665 ページ

8）『文化の型』

9）*Zuni Mythology*（2 巻本 , University Contributions to Anthropology, 21 号、コロンビア大学出版、1935）この前書きはこの本の 226 ～ 245 ページ

10）*General Anthropology*、フランツ・ボアズ編

11）“Prehistoric Archaeology” 前掲書、146 ～ 237 ページ

12）Alfred L, Kroeber “History and Science in Anthropology” *American Anthropology 37*、4 号、1935 年、539 ～ 569 ページ

13）グラディス・ライカードの論文 “Coeur d’Alene” *Handbook of American Indian Languages,* 第 3 部、フランツ・ボアズ編集、ニューヨーク、オーガスティン出版、1933–1938, 517 ～ 707 ページ

14）1938 年出版

15）ビュエル・クエイン、若い人類学者で 2 回目のフィールドワークの折に自殺。

16）1940 年出版

17）Wilhelm Schmidt, *The Culture Historical Method of Ethnology,* trans. S.A. Sieber, ニューヨーク、フォーチュニー出版、1939

18）The Natural History of War 未出版の原稿。*Anthropologist at Work* の 369–382 ページ参照。この手紙で述べられているベネディクトの議論は以下である。外婚制をとっている原始社会の部族同士の戦闘というのは、「家族の暮らしを根元から断ち切ってしまうもので、二つの部落に忠誠心をもつ女性の存在が無視されている。もし彼女が夫の町に居たなら、自分の兄の首がとられたことを勝利の踊りで祝わなければならない。もし自分の父親の部落にいれば、自分の夫の首がとられたことを勝利の踊りで祝わなければならない。」

19）*Race, Language and Culture,* ニューヨーク、マクミラン社、1940 年

20）ボアズは 1936 年に正式に退職し、名誉教授になった。

21）*Race: Politics and Science,* ニューヨーク、マクミラン社、1940 年

22）フランツ・ボアズは公の場でもこの立場をとり続けた。Albert Deutsch の “Boaz Says He’ll Vote for FDR because…,”「ボアズは F.D. ルーズベルトに投票するといいます。なぜなら……」PM（新聞名）1940 年 10 月 25 日参照

23）*Race: Politics and Science*